

保育環境の改善に向けて

共働き世帯が増える中、定員オーバーのため保育園に入ることができない児童（待機児童）の増加は、都市部を中心に社会的な問題となっています。

本市においては、そうした問題の解消のため、市内中心部の保育園においては、多目的ホールなどを使用して定員増を図り対応をしています。

また、長船地域では子育て支援センターが未設置となっていることから、保育環境の改善、保育サービスの向上を図ることを目的として、「岡山県安心こども基金」を活用し、子育て支援センターを併設した民間保育園の誘致を行う「保育所緊急整備事業」に取り組みこととしました。

本事業の実施に当たっては、設計および工事に係る費用を事業基準に基づき、岡山県2分の1、瀬戸内市4分の1を事業者に補助します。

今後の予定は、本年度中に事業

者を公募により選定し、事業者において設計、平成22年度中の工事、23年4月開園を計画しています。

公共下水道の事業を推進

邑久処理区については、山田庄地内の管渠工事の入札が先日行われ、業者が決定しました。今後、地元説明会などを行い、早急に工事に着手する準備をしています。

牛窓処理区でも、現在牛窓地内の管渠工事予定個所の事前家屋調査を行っているところです。

長船中央処理区については、日本下水道事業団により発注され、浄化センターの汚泥処理設備工事を今年度と来年度の2カ年で完成するよう進めています。また、長船町服部地内の幹線管渠工事も約20%の進捗率となっています。

整備が進む農業集落排水施設

尻海地区、美和・牛文地区の農

業集落排水事業は、平成21年度に完了の予定で、尻海地区の真空ステーション工事も約30%の進捗率です。

また、昨年度から工事を進めていた美和・牛文地区の浄化センターの土木建築工事および機械電気工事についても、現在約70%の進捗率ですが、建設工事は基礎工事の一部を工法変更したため、また、機械電気工事については、建設費およびメンテナンス費の削減を図るため、他地区の実績を基に再検討した結果、契約変更を行うこととします。

老朽化した水道施設を修繕・更新

本年9月末の上半期仮決算の概要については、水道事業収益のうち、営業収益は、前年同期と比較して13、836千円の減、営業外収益は、前年同期と比較して184千円の減、収益合計は428、486千円で、前年同期と比較して14、020千円の減少となっており、夏季の低気温や

降雨日数の影響が考えられます。

水道事業費用のうち、営業費用は、前年同期と比較して2、371千円の減、営業外費用は前年同期と比較して6、590千円の減、費用合計は370、578千円で、前年同期と比較して8、961千円の減少となりました。これは、主に公営企業債の借り換えにより利息が削減となったことによるものです。

以上により、平成21年度上半期においては、57、908千円の当期純利益となります。

建設改良事業のうち、邑久町下笠加地内の石綿管布設替工事、長船町土師地内の送水管布設工事にについては、予定より発注が遅れましたが、先日入札を行いました。石綿管の更新については、今年度計画の工事が完了すると、本年度末の石綿管残延長は約5キロメートルになり、全送配水管延長339キロメートルに対して、約1・4%の残となる予定です。平成23年度までに残りの石綿管についても、改良していく予定です。

また、公共下水道事業に伴う水道支障移転工事についても、各処

理区の工事を発注しており、近日中には着工となる予定です。

調査」の結果が分かりました。本市の小学校6年生・中学校3年生の国語と算数・数学の平均正答率は、昨年度と比較して、小学校では全国の平均正答率をやや下回るものの、その差は大きく縮まりました。

今後とも、安全な水道水の安定供給に努めていきます。

また、中学校では4領域中3領域において全国の平均正答率を上回る結果となっています。この結果、正答数の分布は、小学校では上位層がやや少なく、中位層から下位層が若干多くなっています。

冬期に向けて火災予防対策を強化

瀬戸内市管内の火災の発生件数は、今年1月から10月末までの間で、23件あり、昨年同期より4件増加しています。

これからの季節は、火災が起りやすい気象状況になると同時に、火を使用する機会が多くなります。今後とも火災を未然に防ぐ予防行政の充実強化と、住宅用火災警報器の設置促進に努めます。

全国学力・学習状況調査の結果

今年度の「全国学力・学習状況

調査」の結果が分かりました。本市の小学校6年生・中学校3年生の国語と算数・数学の平均正答率は、昨年度と比較して、小学校では全国の平均正答率をやや下回るものの、その差は大きく縮まりました。

また、中学校では4領域中3領域において全国の平均正答率を上回る結果となっています。この結果、正答数の分布は、小学校では上位層がやや少なく、中位層から下位層が若干多くなっています。

今回の調査で明らかになった本市の課題は、学習習慣の確かな定着や言語活動にかかわる表現力の向上です。そのためには、習熟度別の指導の充実・指導方法を工夫したり、放課後や長期休業中の学習指導の機会を増やしたりするこ



学力向上に向けて、さまざまな取り組みを開始

とにより、学習の量を増やすだけでなく、学習の質も向上させる必要があると考えます。また、本市の子どもたちの家庭学習の時間は昨年度よりも改善が見られますが、決して十分であるとは言えず、家庭学習のあり方が学習習慣の改善のポイントの一つであると考えます。引き続き、家庭学習のあり方を工夫し、保護者の協力を得ながら、家庭での学習習慣の定着を図っていく必要があります。

既に、各学校では、「学力・学習状況改善プラン」を作成し、課題解決に向けた取り組みを実行しています。教育委員会としても、

本市を3つの中学校区に分け、学力向上のために研修会を開催したり、プロジェクトチームを設置したりするなど、学力向上への具体的な取り組みが行える体制づくりをスタートしています。

今後、家庭や保護者の理解・協力が得られるよう学力向上に向けた幾つかの提案を示していきたいと考えています。

中央公民館図書室を図書館として活用

老朽化していた牛窓図書館を新たに牛窓町公民館図書室として牛窓支所の2階に移転します。

これにより、市内から図書館がなくなることはありませんが、岡山県教育庁生涯学習課や岡山県立図書館などと協議を行い、市民の図書資料の貸借など学習環境が後退することがないようにします。

なお、新たな図書館が整備されるまでは、蔵書数や利用者登録数が一番多い中央公民館図書室を瀬戸内市立図書館として活用していきたいと考えています。